

学校、通学路の安全確保に向け、昨今の児童生徒の尊い命を奪う交通事故・事件の発生も踏まえ、スクールガード・リーダー増員による見守りの充実や、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上を促進することにより、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化を図る。

■実施主体: 都道府県及び市町村 ■補助率: 国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担

スクールガード・リーダーの育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する育成講習会の実施

スクールガード・リーダーに対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる指導、見守り活動に対する謝金、各学校を定期的に巡回するための旅費等の補助
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの連絡会等の開催を支援、装備品の充実

スクールガード・リーダー育成講習会、スクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、**見守りの人材確保と質の向上**



スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯に対する知識、非常時の対応策等を身に付けさせるための養成講習会を実施
- 活動の参考となる資料を配布することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

- 「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など防犯活動への支援
- 子供の見守り活動に係る帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助

スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、**見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言**

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

スクールガード・リーダー、スクールガードについて

【スクールガード・リーダーとは】

各自治体から委嘱された防犯の知識を有する者（警察官OBや教職員OB、見守り活動の経験が豊富な方等）で、防犯知識を活かした学校への巡回活動の指導を実施 ※（補助対象）謝金、旅費、保険料、防犯装備品など

【スクールガードとは】

地域住民や生徒の保護者等のボランティアで、スクールガード・リーダーの指導を受けながら、通学路などの巡回パトロールや危険個所の監視等を実施 ※（補助対象）帽子や腕章、停止旗、ボランティア保険料など

活動による成果等

●地域ボランティアの拡大

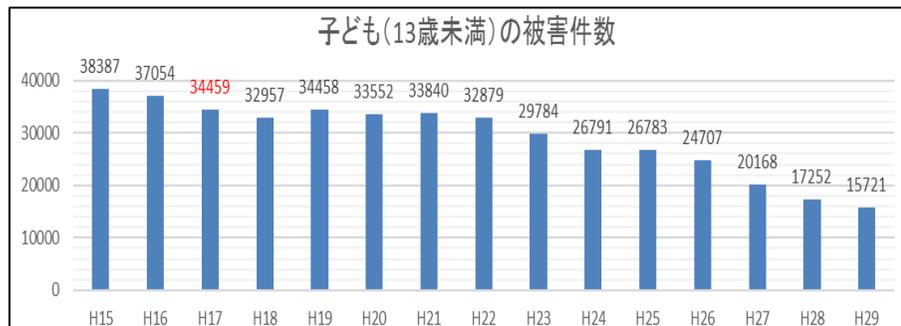
学校内外において、地域のボランティア等による巡回・警備が行われている学校の割合について、平成16年度（本事業実施前）は49.3%のところ、平成17年度（本事業開始）は63.1%と大幅に増加、それ以降本事業による推進により、平成30年度においても、64.0%※を維持している。

※学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査（平成30年度実績）

●犯罪発生状況

子供（13歳未満）に対する被害件数の推移をみると、本事業実施前の平成15年から平成16年にかけては-1,333件、本事業実施後の平成17年にかけては前年比-2,595件と約2倍の減少を見せている。

16年から17年にかけては、ボランティアの巡回・警備も大幅に増加した年である背景を考慮すると、被害減少の一翼を担っていることも十分考えられる。

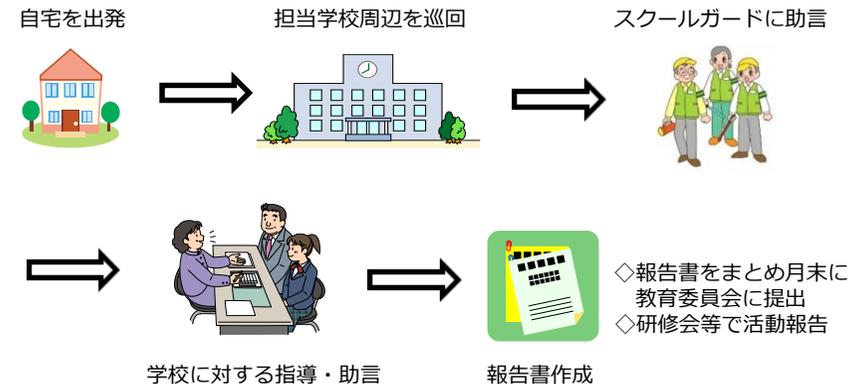


出典：警察庁 警察白書

スクールガード・リーダーの役割

- ・各学校を定期的に巡回し、学校に対する警備のポイントや改善すべき点等の指導と評価を行う。
- ・スクールガードに対し養成講習会や巡回中に警備上のポイントや不審者対応等についての具体的な指導を行う。
- ・教職員OB等を対象にSGL育成講習会を実施し、人材確保を図る。
- ・意見交換する場を設け、家庭・地域との連携の場を構築する。
- ・パトロール、防犯訓練、通学安全マップ作成などの企画、指導を行い防犯意識の醸成を図る。

【スクールガード・リーダーの1日の活動（一例）】



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

千葉県千葉市

「スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	981,738人	271.8km ²	3,612人/km ²	113校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」として委嘱事業であった平成14年度～補助事業に変わった現在に至るまで長期間事業を継続している。
- 登下校の見守り活動を実施する「学校セーフティウォッチャー」と、学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーに対する指導・助言を行う「スクールガード・アドバイザー」が活動している。
- 活動者、市、学校、学校支援地域本部（地域学校協働本部）等が積極的に連携を取りながら取組を進めている。

基本情報

事業開始時期	平成14年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業を開始
事業内容	学校セーフティウォッチャーの養成・研修、「スクールガードアドバイザー」による学校への巡回・評価・学校セーフティウォッチャーへの指導・助言
活動者数と 主な経歴	スクールガード・アドバイザー 13名 (元警察官1名、元校長12名) 学校セーフティウォッチャー 25,149名 (保護者、PTA、地域住民、学校支援地域本部等)
活動学校	市内全小学校・中学校・特別支援学校・市立高校
行政からの支援	スクールガード・アドバイザー 帽子、腕章、ネームタグ 学校セーフティウォッチャー 腕章 ※横断旗、ビブス等の装備品は各学校から提供



活動の内容

- 「青少年育成委員会」が設定されている中学校区を1つの区域とし、登下校の見守り及びスクールガード・アドバイザーによる巡回を実施している。
- 見守りの対象は主に小学生だが、中学校区をカバーすることで小学校の通学路もカバーしている。特別支援学校、市立高校も巡回の対象としている。
- 学校セーフティウォッチャーは主に活動する小中学校へ登録し活動する。スクールガード・アドバイザーは各育成委員会4から6区域を担当する。
- 「スクールガード・アドバイザー連絡協議会」を年1回開催し、情報交換及び学校セーフティウォッチャー活動の充実を目指し、講師の指導を受ける。
- 青少年育成委員会や学校支援地域本部との連携、情報共有を密に実施している。学校セーフティウォッチャーの登録者は、学校支援地域本部における見守り活動実施者と重なる部分が大い。

活動の工夫

- ◎ 学校セーフティウォッチャーへの「感謝」が活動の継続性に繋がる
 - 学校セーフティウォッチャーが“いて当たり前”の空気が課題の一つである。
 - そのため、教員への意識啓発とともに、学校セーフティウォッチャーを学校に招待して児童の発表会を見学したり、セーフティウォッチャーにお礼の手紙を読む会、給食を一緒に食べる会など、各学校が独自に取り組んでいる。
 - 日頃からの学校との関係づくりだけでなく、学校セーフティウォッチャーのモチベーションアップ、活動の継続にも繋がっている。
- ◎ 様々な主体とのコミュニケーションにより、地域全体での見守りを実現
 - 巡回時には、学校教員とのコミュニケーションを積極的に実施するなど、市・地域学校協働本部等とのコミュニケーションを重視、スクールガード・アドバイザー、学校セーフティウォッチャーだけで見守るのではなく、地域全体で子供たちの安全を見守る体制を構築している。

気持ちよく見守り活動ができるような環境づくりが大切

スクールガード・アドバイザー 花沢俊一さん

セーフティウォッチャーが活動中様々な人と挨拶を交わすことは、子供たちの見守りだけでなく、良好な地域づくりに寄与していると考えています。学校セーフティウォッチャーが気持ちよく活動できる環境づくりのため、巡回時のコミュニケーションを大切にし、市や学校とのよき仲介役となるよう努めています。セーフティウォッチャーからの「ありがとう」の言葉はとても嬉しいですね。

いつの日か今の子供たちがセーフティウォッチャーやスクールガード・アドバイザーとして活躍してくれる日が来るといいな、と夢膨らませながら活動しています。



～プロフィール～

- 中学理科教員、千葉市補導センター、小学校校長を歴任。
- 退職後、現役時代にお世話になった地元への恩返しをしたいと、平成29年度から活動開始
- 市内5つの中学校区、8つの小学校を担当。担当区が広いため、独自にグループをつくり、日替わりで巡回している。本人曰く「活動は健康の為でもある」とのこと。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

福岡県福岡市

「マンパワーとIoTを組み合わせ、新しい見守り活動へチャレンジ」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	1,563,218人	343.46km ²	4,551人/km ²	145校

※令和3年2月末日現在



活動の概要

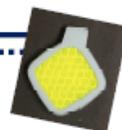
- 教育委員会指導部生徒指導課が所管課として、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」での各校巡回、NPO法人による防犯教室などを推進しているほか、市民局の生活安全部では「IoTを活用した子ども見守り事業」を実施するなど、教育委員会と首長部局とが連携して通学路の安全確保に取り組んでいる。
- 精力的なスクールガード・リーダーと大勢のスクールガードによって、市内公立学校全校（小・中学校、特別支援学校）を対象に地域ぐるみ事業の活動を行っている。
- スクールガード・リーダー、スクールガードの高齢化・担い手不足や、マンパワーで対応できることの限界を、IoT等の技術でカバーしようという理念を持っている。

基本情報

開始の経緯	市内外での交通事故・事件の発生や文部科学省からの要請等もあり、2007年度より開始
取組内容	スクールガード・リーダー：学校内外の危険個所の確認・集約、子供が楽しく学べる防犯教室の開催 スクールガード通学路の見守り活動をはじめ、学校の状況に応じ様々に活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：警察官OB（2名）、警備会社関係者（1名）、防犯関連NPO法人関係者（1名） スクールガード地域住民や保護者など29,200名（※R1実績）
活動学校	市内公立学校全校（小学校144、中学校69、特別支援学校8）
行政からの支援	スクールガード・リーダーには、謝金、保険加入等の支援

活動の工夫

- ◎ 市民局の「IoTを活用した子ども見守り事業」とも連携
 - 市民局の防犯・交通安全課では協働実施事業者である九州電力送配電株式会社と協力し、2019年より、小学生に見守り端末を配布して位置情報を記録し、登下校等の安全確保に役立てるサービスを開始している。
 - 教育委員会も連携して事業推進し、既に市内全域でサービスを開始している。
 - 見守り活動員の高齢化、人材不足、時間的な制約といった課題を、IoTを活用することで補完していこうという目的がある。
- ◎ スクールガードの心理的なハードルを下げる
 - スクールガードを大げさに考えず、日々の生活の中で自ずと犯罪抑止につながるような小さな積み重ねを行ってもらうことを重視している。
 - 「地域住民や保護者等、子どもたちの安全に関わっている全ての方々がスクールガードである」との認識を多くの人にもっていただくことができるよう、各学校を通じて、保護者や地域の方々に啓発している。



活動の内容

- スクールガード・リーダーは各学校を年間1回訪問し、学校の内外を観察し、防犯の専門的な見地から指導・助言を行っている。各校についてチェックシートを作成し、校長の所見を書き加えたうえで教育委員会に提出している。
- スクールガード・リーダーは、スクールガードに対して行う養成講習会において、子供たちの防犯についての講師をしている。
- 年間3回の「スクールガードリーダー連絡会」を開催しており、スクールガード・リーダーが各学校を巡回する中で得た情報や意見を集約・共有している。
- スクールガード・リーダーには、防犯のNPO法人関係者もおり、年間数校で防犯教室の講師をしている。子供たちが体を動かしながら、楽しく学ぶことのできる教室を提供している。
- スクールガードは、通学路の見守り活動を中心に、各学校の特性に合わせて様々に活動している。無償のボランティアであるため、過負担にならない範囲での活動を行う。

「スクールガード」のハードルをもっと低く

福岡市教育委員会 指導部 生徒指導課 主査

スクールガードへのハードルが、もっと下がるとよいなと感じています。保護者や地域の方々が、生活の中で少しでも防犯や交通安全を意識するだけでも、地域の抑止力は高まります。スクールガードを特定の人が担う役職だと認識するのではなく、子どもたちの安全に関わっていただいている全ての方々がスクールガードである」という認識が少しでも広がっていくとよいですね。

福岡市民局 生活安全部 防犯・交通安全課 企画調整係長

現在、非常に協力的な活動者の皆様のおかげで、子供の安全が確保されています。ただ、今後はマンパワーに頼り切るのではなく、IoT等の技術を活用するなど、複数の手段を組み合わせ、効率的な見守り活動の姿を模索していきたいと考えています。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

埼玉県加須市

「スクールガード・リーダーと学校応援団による見守り活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	112,764人	133.5km ²	845人/km ²	22校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- 埼玉県において、学校における安全・安心や学習活動等をボランティアとして支援する「学校応援団」が開始されたことを契機に、スクールガード・リーダーによる活動を開始した。
- スクールガード・リーダーは、県の要請もあり、市内全小学校に各1名ずつ配置されている。
- スクールガード・リーダーの経歴には、元学校長、元警察官等の基準はなく、PTA役員や見守り活動経験者等、様々な住民が担っている。
- 市内小・中学校には「学校応援団」として登下校時の見守り活動を実施するボランティアが登録されている。

基本情報

事業開始時期	平成17年度 埼玉県「学校応援団」の開始を契機に、スクールガード・リーダーを導入
事業内容	通学路における見守り活動 挨拶強化月間における教員、学校応援団と連携した見守り活動 担当校教員との情報交換
活動者数と 主な経歴	スクールガード・リーダー：22名 市内22校に各1名ずつ配置 経歴は学校応援団経験者、PTA役員等様々 学校応援団による見守り活動登録者： 小学校 1,021名， 中学校183名
活動学校	市内全小学校 ※ただし、学校応援団は中学校にも登録
行政からの支援	スクールガード・リーダー：ベスト(県より支給)、帽子、腕章、 ライト付きボールペン、メモ ※ただし、市では装備品の支給に係り地域ぐるみの学校安全整備推進事業補助金を活用していない

活動の内容

- 市内22のすべての小学校に1名ずつスクールガード・リーダーが配置されており、登下校時の見守り活動や学校との情報交換を実施している。
- 活動方法や活動内容に特段の決まりごとはなく、スクールガード・リーダーが学校と相談するなどして決定している。
- 毎年5月、10月の「挨拶強化月間」に合わせて、スクールガード・リーダー、教員、学校応援団が連携した見守り活動を実施している。
- 学校毎に、見守り活動に係る研修会を実施している。

活動の工夫

- ◎ 感謝の会や学校行事への招待によりモチベーションアップを図る
 - 各学校において、自主的にスクールガード・リーダーや学校応援団への感謝の会を実施しているほか、スクールガード・リーダーを運動会や学芸会、卒業式等に招待する学校もある。
 - こうした取組は、活動者のモチベーションアップに繋がるだけでなく、子供たちがスクールガード・リーダーを認識するきっかけともなる。
- ◎ 市報にスクールガード・リーダーを紹介し、活動のしやすさを向上させる
 - 過去、スクールガード・リーダーの活動が地域住民に十分に浸透していないという指摘があった。地域住民の活動への理解は、スクールガード・リーダーの活動のしやすさに直結する可能性が高い。
 - そこで、各校を担当するスクールガード・リーダーを市報にて紹介し、スクールガード・リーダーの認知度と活動のしやすさの向上を目指した。

子供達の自主性も見守ることが大切

スクールガード・リーダー 加藤久佳 様

市では、集団登校を実施しており、高学年の班長がいます。班長は、周りを見て低学年の子供たちに危なくないよう声かけをしています。せっかく子供達同士が危ない行為や危ない箇所を伝え合っているのに、大人が言いすぎるのはよくないと思っています。もちろん、本当に危険な場合には声をかけますが、基本的には「見守る」ことに徹しています。
学校から卒業式に招待いただいており、長年見守っていた子供たちが成長した姿をみると、感慨深いものがあります。



～プロフィール～

- 平成23年度にスクールガード・リーダーが3校1名体制から1名1校体制に変わったことを契機に、スクールガード・リーダーとしての活動を開始。活動開始当時はPTA副会長。
- 通勤前に自動車ですぐ学校へ向かい、1.5時間程度見守り活動を実施の後に出勤。
- 担当校区4～5kmの範囲を自転車や徒歩で巡回。趣味の街道歩きでのトレーニングにも寄与しているとのこと。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

山梨県道志村

「村全体で子供の安全を見守る体制の構築を目指した取組」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
村	1,632人	4.99km ²	327/km ²	1校

※令和3年3月1日現在



活動の概要

- ・ スクールバスで通学している児童に対して、スクールガード・リーダーが車での見守り活動等を実施。
- ・ P T Aの代表や学校長、駐在所、教育委員、教育委員会事務局を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織して見守り活動を実施。
- ・ さらに、保護者をはじめとして地域全体で見守りを行う体制を構築していくための出発点として、「活動している様子」を見せて行くような周知・PR活動を進め、住民の意識啓発に取り組んでいる。

基本情報

開始の経緯	村内の主要道路の交通量が比較的多く、交通事故が多く発生していることや他県等における子供が狙われた事件等の発生をきっかけとして開始
取組内容	スクールガード・リーダーによる車両追尾による見守り活動、防犯教室の開催 関係組織と連携した「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」による見守り活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：1名（教育委員0名）
活動学校	村内の小中学校（小中一体型）
行政からの支援	スクールガード・リーダーに対する帽子、腕章を提供

活動の内容

- ・ 村内の小・中学生はスクールバスで通学していることから、SGLによる見守りは、スクールバスの後ろを自動車でも追尾する形で実施している。
- ・ スクールガード・リーダー一人ではできることに限界があることから、地域全体での見守りの機運を高めるため、PTAの代表や学校長、教職員、駐在所、教育委員、教育委員会を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織し、学期に2回、スクールバスの停留所などでの見守り活動を行っている。
- ・ また、同隊の結成にあわせて様々な団体への見守り活動の協力を呼びかけており、建設業協会からはベスト30着の寄贈をうけるとともに、車両に見守り活動中のステッカーを掲示した、ながら見守り活動にも参加いただいている。
- ・ 日常的にPTAから挙げられた危険箇所について教育委員会で取りまとめており、10月に実施している合同安全点検では、スクールガード・リーダーや警察・道路管理者とともに点検を行っている。

活動の工夫

- ◎ 見守り活動を地域に周知して地域の意識向上を図る
 - ・ スクールガード・リーダーが保護者や児童・生徒に知られることが重要となるため、始業式や運動会、文化祭などの様々な行事においてスクールガード・リーダーが出席するようにしている。
- ◎ 学校・教育委員会など地域との積極的な連携の場の構築
 - ・ スクールガード・リーダーはもともと教育委員であったこともあって教育委員会や学校現場とのネットワークができており、普段から密な連携を行っている。
 - ・ 「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」でも、関係者が集まって相互に意見交換や情報共有を行うなど、地域の関係者と積極的に連携する場を構築し、地域全体で防犯意識を底上げして、地域全体で見守る取組を進めている。

地域全体で見守る意識の情勢に向けて、活動を見せることから始める

道志村スクールガード・リーダー 池谷幸昌さん

一人でできることには限界がありますが、スクールガード・リーダーやスクールガードを増やしても、地域全体をくまなく網羅的に見守ることはやはり難しく、地域全体で協力をしていくことは必要不可欠です。

県が実施している研修会などに参加して他のスクールガード・リーダーの方の話聞く中で、地域全体で見守るような体制を作っていくことが重要だと考え、様々な団体に声をかけて協力を要請し、結果として「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」などもできました。

「地域全体で協力していく」というゴールに向けて、保護者をはじめとした地域の皆さんの協力を得られるようになるためには、まず、見える形で「活動している様子」を見せて行くことが大事だと考えており、村と協力しながら、周知・PR活動から取り組みを進めています。

